

道南

発行 2009年1月1日
発行所 北海道道南会事務局
連絡所 横浜市鶴見区生麦
4-9-13-803
TEL 045-505-9709
FAX 045-505-9709

元気なふるさと

道南会会長 川守田孝平

あけましておめでとござい
ます。皆様お変わりなく、良い
新年をお迎えのことと、お慶び
申し上げます。

昨年、アメリカのサブプライ
ムローン問題から始まった金融
危機に端を発し、世界に広がっ
た経済不安は、一気に日本の経
済にも大きな影響を与え、先行
きの不透明感が漂っています。
いまひとつ景気の盛り上がり
に欠け、多くの苦労を重ねて来
た北海道の経済も、そのあおり
を受けて、ますます難しい状況
になるのではないかと、気がか
かるところです。

私たちのふるさと道南も、こ
の世界を覆う危機の影響に左右
されることは、間違いないこと
と思いますが、この厳しい試練
に負けない、元気なふるさとで
あつて欲しいと思つています。

北海道の玄関口函館や、古く
から栄えた江差、松前、森など
を抱える道南は、大きな基幹産
業こそ少ないものの、海や山か
らの自然の宝に恵まれ、加えて
観光資源の開発など、夢の多い
地域であると思います。

東京に「ふるさとテレビ」と
いうNPO法人があります。こ

の「ふるさとテレビ」は、都市
の人達にふるさとのことを、広
く知つて貰い、人や物の行き来
による、経済を主としたふるさ
との活性化と、併せて日本の活
性化を図ることを目的とした、
NPO法人です。

先般このNPO法人によつ
て、「ふるさとテレビセミナー」
が開催されました。セミナーで、
講師が話された、『ふるさとを
元気にする、七つの方法』をこ
紹介致します。

一、歴史環境の再生
地域に現存する歴史的な施設
を、新しい視点での見直しと活
用。

二、商業環境の再生
集客は、従来の物(商品)から、
奉仕(サービス)への発想の転
換が必要。

三、自然環境の再生
自然環境の保全と、地域での経
済活動の融合策は可能である。

四、地産地消の推進
他からの移輸入食品に、頼らな
い消費生活による、地場産業の
育成を図る。

五、地域産業の創造
地域密着型産業、ローカル性の
ある、隙間商品の開発と育成。

六、地域商標の確立
ローカル商品を商標登録し、ブ
ランドの保全と、販売戦略を確
立する。

七、人口移動の推進
過疎地での生活を支える、地域
での仕事の斡旋と、住居の提供
を考える。

このような方法は、全国の各
地域において、それぞれの地域
にあつたやり方で、実施されて
いるようです。既に道南は道南
なりの方法で、進めていること
があると思いますが、地域に相
応しい、方法と活路を見いだし
て、ふるさと道南が、ますます
元気になるよう、願っています。

また、東京には以前から、全
国各地のアンテナショップが、
進出していました。今は日本
橋や銀座付近を中心に、多くの
ショップが outlet して、しのぎを
削っています。

県直営の所もありますし、民
間経営のショップもあります。
いずれの店も地域の限られた物
産が、どうしたら沢山の方に、
魅力を感じて貰えるかを、真剣
に考えながら工夫している様子
が窺えます。

北海道のショップは、有楽町
交通会館にある北海道プラザ
と、東京八重洲口の北海道フー
ディストがあり、何時見ても混
雑しているようで、ふるさとの
産品がずらりと並び、売れてい

るのを見ると、嬉しく思います。
私たち道南会は、ふるさと道南
がこの厳しい状況を乗り越え、
何時までも元気でいて貰いたい
と、遠く離れた場所から応援を
続けたいと思っております。



函館市の近況について

函館市観光コンベンション部 池田 敏春

平成二十一年の函館開港
百五十周年記念行事に
ついて。

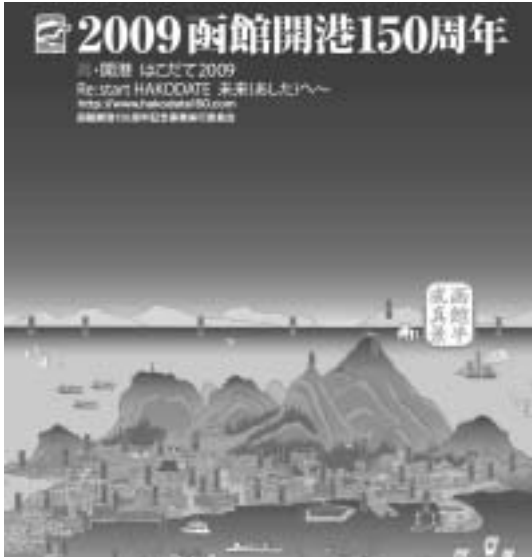
二〇〇九年は函館が国際貿易
港として諸外国に開かれてから
百五十周年の節目に当たりま
す。

この「開港百五十周年」とい
う歴史的な年を祝うため、二〇
〇七年から函館市と各機関・団
体などからなる函館開港百五十
周年記念行事実行委員会を組織
し、実働部隊である市民ポラン
ティアスタッフによって様々な
企画を進めて
おります。

百五十周年
の開港記念日
までちょうど
三百日となっ
た二〇〇八年
九月四日には、
金森赤レンガ倉庫前
の歩道に「函館
開港百五十周年
カウントダウン
モニュメント」
を設置、

同十月にはプレイベントとして
「開港五都市麵フェスタ」を開
催し、日本最古のラーメンとも
言われる幻の「南京そば」を復
刻。他都市の麺料理も含め大盛
況のうちに幕を閉じるなど、百
五十周年の気運も否応なく高ま
ってきております。

七月一日の記念式典に始ま
り、八月八日から十六日まで緑
の島で行うメイン事業へと続き
ます。具体的な内容については、
何でも鑑定団にも出演されてい
る岩堀恭一氏をプロデューサー
に迎え、現在大詰め作業に入
っておりますので、決定次第皆



函館開港150周年ポスター

様にお伝えいたしたいと考えて
おります。



ミスはこだたと函館開港150周年
カウントダウンモニュメント

観光施策の 取り組み等について

・森田芳光監督の最新作「わた
し出すわ」函館ロケ

十一月十六日から二十日
まで、はこだて観光大使でもあ
る森田芳光監督が最新作「わた
し出すわ」の函館ロケを行われ
ました。

あらずじは、突然帰郷した女
性(小雪)が高校の時の同級生
たちと再会し、その夢や希望の
実現のために大金を渡していく
という内容になっており、森田
監督十二年振りのオリジナル脚
本による作品です(共演:黒谷
友香、小池栄子、仲村トオルほ
か)。撮影は多くの市民エキス
トラや関係各所のご協力をいた

だき、無事に終了いたしました。
映画は二〇〇九年に全国公開
の予定となっておりますので、
どうぞご期待下さい。

・体験型メニュー等の創出(湯
巡り、ドライブ&ステイなど)

十一月には、新たな函館の魅
力創出の取り組みとして、実証
実験を二つ行いました。

「渡島檜山ドライブ&ステイ」
は、従来取り組んでまいりまし
た、はこだてドライブ&ایت」
(個人型の旅行形態に対応すべ
く、車で旧四町村地域をめぐり
ながら地元味わいを食するスポ
ットをチケットで巡るイベン
ト)の応用として、道南地域に
おける周遊観光ルートの形成と
滞在型観光の実現に向けた宿泊
型ドライブ観光を促進させるこ
とを目的に行い、函館・北斗・
木古内・知内・福島・松前・上
ノ国・江差・厚沢部・七飯の
各エリアで指定された飲食店や
観光施設を、チケットを手に車
で巡るというものです。

また、函館湯の川温泉「湯巡
り紀行」は、函館湯の川温泉旅
館協同組合のご協力をいただ
き、参加六施設から三つを選び
湯巡りをしていただくというも
ので、一般的な温泉地が持つて
いて湯の川に乏しかった「湯け
むり」「そぞろ歩き」を演出す
るために、浴衣でまちあるき

湯巡りの実証実験を行ったもの
です。
このほかにも各種の取り組み
を進め、観光地函館の新たな魅
力づくりに今後も取り組んでま
いります。

・光の小径

光の小径は、手作りのワック
スキャンダルを観光スポットの
道路沿いに並べ幻想的な雰囲気
を醸し出すことで、光あふれる
まち函館の「冬」に、手作りキ
ヤンドルの「光」による新しい
輝きを創出しようというイベン
トです。昨年、一昨年と実証実
験を重ね、今回ははこだて冬フェ
スティバルの一環として本格実
施に踏み切りました。観光で訪
れる皆さんと函館市民が共同で
ワックスキャンダルを手作り
し、そしてキャンダルを配置し
ながら明かりを灯して歩く参加
型イベント、それが「光の小径」
です。ほのかな光で繋がれた街
並みは、見る人の気持ちを温か
く、そして感動で包み込むこと
でしょう。

点灯のスケジュールは以下の
とおりとなっております。
日時/二〇〇九年二月一日(日)
〜二月十五日(日)
二月一日(日)〜五日(木)
元町公園・港が丘通り周辺
二月六日(金)〜八日(日)
五稜郭公園

二月九日(月)～十日(火)
地域交流まちづくりセンター南
部坂周辺

二月十一日(水・祝)

函館山登山道

二月十二日(木)

湯の川温泉周辺

二月十三日(金)～十五日(日)

金森赤レンガ倉庫周辺

協力/NPO法人スプリング

ボードユニティ²¹



光の小径(ワックスキャンドルと
旧函館区公会堂)

・函館観光情報サイト「はこぶ
ら」の開設

函館観光情報サイト「はこぶ
ら」について、ご紹介したいと
思います。

近年、旅行のニーズは団体旅
行から個人旅行へとシフトしつ
つあり、観光客は自分の興味・
関心に沿って、より満足度の高
い旅行を求めるようになってき
ています。函館観光においても、
従来の夜景依存型観光から脱却
し、豊富な観光資源を観光客の
ニーズに応じて提供できるよう
にすることが必要となっていま

す。
このため、主として函館を訪
れる観光客を対象に、函館市民
が自信をもって薦められる観光
情報を提供し、それを有効に活
用していただくために構築した
のが、函館観光情報サイト「は
こぶら」です。

「はこぶら」の名前には、た
くさんの人に、「函館の奥深い
魅力をぶらぶらと歩きながら感
じて欲しい」、「函館の街を愛し
ていただきたい」、そんな願い
が込められています。

サイトの構築は、公立はこだ
て未来大学が行い、「大切なあ
の人が函館に来てくれるとした
ら、どういうもてなし方をしよ
う?」という函館市民それぞれ
の思いが反映されるよう配慮し
ました。

また、運営は、民間企業への
委託や、観光関連事業者で組織
する運営委員会を中心とし、市
民記者や各種ワーキンググル
プなど、市民協働による運営に
力を入れ、これまで行政が発信
することのできなかつた、口コ
ミによるおすすぬ情報を積極的
に発信してまいります。

観光客の皆様には奥深い函館の
魅力を伝え、満足度を高めてい
ただくためにも、市民の皆様か
らも、たくさんのおすすぬ情報
を寄せていただきますので、道
南会の皆様におかれましてはこ
支援のほどよろしくお願い申し

上げます。

函館観光情報サイト「はこぶら」
アドレス
<http://www.hakobura.jp/>

・ロシアセンター開所

先月四日、ロシアに関する情
報の発信拠点となる「函館ロシ
アセンター」の開所式典に出席
しました。ロシアセンターの開
設は国内では初めてであり、式
典には、ラヴロフ・ロシア連邦
外務大臣も参列され、函館・ロ
シア間の百五十年もの交流の歴
史が今日を作ったという感慨深
い思いがしました。

同センターが日ロの友好の懸
け橋として、両国の発展に大き
く貢献することを心から期待し
ています。



函館ロシアセンター開設式典のた
め来函されたロシア連邦外務大臣
と函館市長

益田喜頓生誕百年記念事業函館市民ミュージカル
「案山子物語」浅草公演の成功に向けて

益田喜頓生誕百年記念事業実行委員会
実行委員長 金山 正智
(函館市文化・スポーツ振興財団理事長)

道南会会員の皆様、あけまし
ておめでとつございませう。

本年、函館は開港百五十年
という節目の年を迎えます。本
年はまた、函館が生んだ喜劇俳
優、故益田喜頓氏の生誕百年に
も当たります。

喜頓さんは、函館に帰ってこ
られてから市民と一緒に野外劇
に出演されたり、講演を気軽に
お引き受けいただくなど、函館
市民の文化活動に積極的に参
画され、ご自身の豊かな芸能体
験を私どもにお示しいただきま
した。また、市民のために「ミ
ーシカル 案山子物語」を書き下
ろし、その制作にも参加される
など、函館の文化振興に大きな
足跡を残されました。

一昨年の秋、喜頓さんを知る
多くの市民の方から、生誕百
年という節目の年に、ぜひ喜頓
さんを偲ぶ記念事業を実施し
たいとの熱い想いが寄せられ、
函館市や母校の函商同窓会、喜
頓さんが所属していたこともあ
る函館海洋倶楽部など、関係団
体の皆さんの賛同も得て、益田
喜頓生誕百年記念事業実行委
員会が発足いたしました。

実行委員会では、その記念事
業として喜頓さん原作のミュー
ジカル「案山子物語」公演のほ
か、喜頓さんの出演した映画の
上映会やゆかりの品々の展示会
などを、八月から九月に函館市
民会館で開催する予定です。

そして今回は、市民ミュージ
カル「案山子物語」を喜頓さん
が長年住んでいた東京・浅草の
人たちが道南会の皆様方にも
鑑賞していただくことと九月二十
日(日)に浅草公会堂で上演いた
します。

開港百五十年を迎える本
年は、国内外に函館市の歴史的
な位置づけや文化について大い
にアピールしていく絶好の機会
であり、喜頓さんの生誕百年記
念事業を通して、函館市民の熱
いエネルギーを東京をはじめ全
国に伝えたいと考えておりま
す。

道南会会員の皆様には、ぜひ
浅草公演を鑑賞され市民の熱い
パワーを感じていただければ幸
いでです。皆様の絶大なるご支
援・ご協力をお願いいたします。

箱館開港

「はこだて検定公式テキストブック」より

(一)ペリー来航 ペリー艦隊浦賀へ

一八五三年(嘉永六)六月三日、アメリカ大統領の国書を携えた東インド艦隊司令長官ペリー提督が、サスケハナ・ミシシッピ・プリマス・サラトガ号の四隻を率いて浦賀沖に投錨しました。浦賀奉行所から与力の中島三郎助らに対処にあたりました。六月九日、久里浜に急造された会見所で浦賀奉行戸田伊豆守・井戸石見守がペリーから国書を受け取りました。

アメリカが日本に要求したことは、通商、漂流民の救助・保護、避難港の確保と石炭・薪水などの補給の三点でした。この背景には、中国貿易に伴うアジアへの関心の高まりと、北太平洋で盛んになった捕鯨業の補給基地確保のためでした。

浦賀で国書を渡したペリーは、那覇を経由して香港で再訪

日の準備を進めました。

日米和親条約の締結へ

一八五四年(安政元)一月十六日、ポーハタン号など七隻が横浜沖に投錨、後日サラトガ、サプライ号が合流し全九隻となりました。二月十日、幕府代表の林大学頭ほか四名との交渉が横浜村で始まり、三月三日に日米和親条約が締結され、下田・箱館の二港が船中欠乏品の補給、漂流民の保護・救助を行うことの出来る避難港として決定されました。下田は条約締結後から、箱館は翌年二月からの開港となりました。

ペリー艦隊箱館へ

条約締結後、ペリー一行は箱館にやってきます。松前藩では藩士を要所に配置し、山背泊から市人口の枅形(現大手町)の海岸線に塀を建てました。住民には、婦女子は近隣の親戚に避難させ、港や町への出入り禁止、箱館山にある神社への参詣禁止、仏事の延期、葬儀の縮小、



石塚官蔵と従者

覗き見の禁止などの触れが出されました。四月十五日、パンダリア・マセドニアン・サザンブトン号が箱館に入港し、松前藩応接方代嶋剛平らに幕府の書状を手渡し、翌日から湾内測量を始めます。二十一日にペリーが乗艦するポーハタン・ミシシッピ号が箱館に入港します。五月六日、松前藩応接方に幕府役人が加わり、ポーハタン号においてペリーと会談します。遊歩区域などに関する会談は進展せず、ペリーは五月八日、下田に向けて箱館を離れました。

ペリー一行は箱館での買い物

を松前藩に要求し認められ、沖之口役所を会場に行わ



ペリー買物の図

れ、衣類や塗物・陶磁器類など日本独特の手工芸品を購入しました。また、箱館で停泊中に二名の船員が亡くなり、沖之口役所から墓地として提供された山背泊まで葬列を行いました。ペリーの最大の目的は、日本との条約締結でしたが、そのほかに日本の動植物を収集してアメリカに持ち帰る目的もありました。箱館で収集したものでペリー一行の人物の名前が学名になっているものもあります。例えば、魚類ではイトウ(Hucho bery)にペリーの名前が、植物ではキンギンボク(Lonicera morrowii A.Gray)に植物収集家のモローの名前がつけられています。また、ペリーはワシントン記念塔に使用する石を収集しました。箱館では、巾一尺二寸程長サ式尺五寸厚壹尺二寸程有之石二本」を松前藩から譲り受けています。

(二)五稜郭の築造

開港と箱館奉行そして五稜郭 一八五五年(安政二)の箱館開港を控え、箱館奉行に任命された竹内保徳は、箱館の役所と役人の住居問題に直面しました。当初竹内は、旧来の奉行所庁舎を使用するつもりでいました。しかし、蝦夷地調査を行い箱館の防備が不十分なることを知っており、後に箱館奉行となる村垣範正と堀利照は幕府に対して、役所の移転と台場の整備を上申します。

移転先について、堀利照は亀田(現函館市)もしくは有川(現北斗市)を候補にあげ、村垣範正は、更に具体的に「鍛冶村の西、中道の南」といって、現在地と思われる場所を候補にあげています。更に築造にあたっては、「西洋諸州陣法術書」を参考に、万一の場合に備えて役人の家族をはじめ、箱館の住民をも避難させることの出来るようなものを考えていました。

五稜郭の設計者、武田斐三郎 五稜郭の設計を担当したのは武田斐三郎成章でした。武田は伊予国大洲(現愛媛県大洲市)に生まれ、緒方洪庵・佐久間象



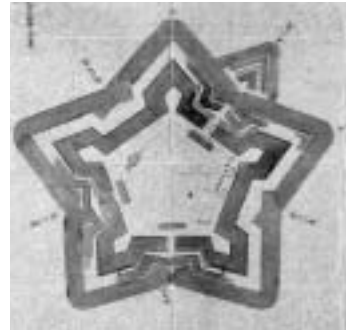
ペリー提督来航記念碑



武者返しの石垣

敵兵が石垣をよじのぼっても、乗りこえられないようにしたのが、「武者返し」。五稜郭の武者返しは、石垣の上に板石を張りださせた、台場遺構に特有の形態をもつ。

五稜郭は、ヨーロッパで発達した城塞都市をモデルとしています。武田は、ペリー艦隊が箱館に来航した際に艦に乗り込山などに蘭学・西洋兵学を学



五稜郭現地存在之図

び、一八五三年(嘉永六)幕府に出仕し長崎に赴任します。翌年には蝦夷地御用となり、蝦夷地の調査を行いました。

み、西洋の技術を実見し、一八五五年(嘉永六)には、箱館に入港したフランス軍艦コンスタンティン号に赴き、台場や城塞について説明を受けたり、書物を閲覧しました。この体験が、西洋技術による五稜郭設計にいたった背景として考えられています。しかし石垣の積み方や中に建てられた役所(奉行所)など実際の工法は、日本で行われているものでした。

五稜郭内の役所 箱館奉行所

箱館奉行所に勤務する役人は一八五八年(安政五)頃で約四百人でしたが、このうち箱館にいたのは半分ほどでした。五稜郭の北側、現在の裏門の橋を渡った先には、奉行所に勤務する人たちの役宅(長屋)がありました。

工事中には「亀田御役所土壘」と呼ばれ、七年の歳月をかけて建設された五稜郭は、一八六八年(明治元)に江戸幕府が崩壊したことにより、奉行所としての機能は四年あまりで終わりました。奉行所はその後、一八七一年(明治四)に開拓使によって

取り壊され、その姿を消しました。奉行所の建材は民間に払い下げられました。

(三)「百物百工」をめざして 続豊治が実物から開発した西洋型帆船

続豊治は一八二一年(文化八)船大工に弟子入りし、一八一三年(文化十)、十六歳の時ゴロヴニンを乗せたディアナ号が箱館を出帆する姿を見ていました。一八三〇年(天保元)高田屋金兵衛に従って関東、関西を歩き、造船術を学びました。一八五四年(安政元)、ペリーが箱館に来航した時、その熱意を認めた箱館奉行は、豊治に艦内見学を許可しています。一八五六年(安政三)、箱館奉行の命令により、豊治はバツテラ(短艇)一隻を辻松之丞の造船所で完成し、同時にスクネール船の模型を造りました。箱館奉

行所は奉行所備船として蒸気船の下げ渡しを申請していましたが、交渉が進まなかったため、この模型が良く出来ているので豊治にスクーネル船の建造を命じました。箱館型様式スクーネル船である箱館丸が完成したのは一八五七年(安政四)、豊治六十歳の時です。奉行堀利照は江戸に帰る時、これに試乗して帰りました。一隻目が亀田丸で、一八五九年(安政六)に完成し、二年後ロシアのアムール川上流のニコラエフスクへ航海しています。

豊治は、西洋の造船技師から直接教わったのではなく、実物の研究と工夫によって船を開発したのでした。その背景には、辻松之丞や島野市郎治の造船所など、箱館の造船技術の水準の高さもありました。

(四) 北の国際都市

異文化が身近に交流する街

十九世紀中頃の箱館は、日本を代表する北の港町として、欧米に広く知られるようになり、一八五六年(安政三)、アメリカで発行された「ペリー日本遠征記」や一八五七



復元された北前船

年発行の新聞「イリュストラシオン」などの記事には、上陸したアメリカ人やフランス人が街中で聞いた函館なまり「はこだで」をそのまま活字にし、「HAKODADI」と紹介しました。

箱館奉行による蝦夷地の開拓と北辺の防備は、一八五六年(安政三)の日本初の洋式ストーブ「クワヒル」の製造や翌年の日本初の箱館型様式スクーネル帆船「箱館丸」の建造、一八六四年(元治元)の洋式城郭「五稜郭」の完成など、近代的技術の導入と都市の近代化を図り、一八五九年(安政六)に貿易港として開港してからは、さまざまな舶来雑貨類を輸入しました。

来航した西欧人は皆、箱館を見て「日本のジブラルタル」と感動しました。一八六二年(文久二)の箱館真景絵図を眺めてみると、開港直後の箱館の様子を伺い知ることが出来ます。箱館山のふもとに街が広がり、その山手には、新築のロシア、イギリスなどの領事館が描かれています。また箱館湾には、北前船とともに外国の軍艦・商船・捕鯨船が浮かんでいます。箱館では、領事館が居留地に出来たわけではなく、奉行所の役人や住民に混じって、ロシア人やアメリカ人、イギリス人などが闊歩し、更に中国人も雇人の名

義で来航したので、まさしく異文化が身近に交流する国際的な都市だったといえます。

箱館洋学ことはじめ

外国人の上陸により、写真術、洋画、気象観測などに触れる機会が多くなり、西欧文化の影響を受けるようになった箱館は、近代化を求める列国に対応する開港場にふさわしい諸術調所が設置されました。一八五六年（安政三）、箱館奉行所の研究教育施設として設立された諸術調所は、蝦夷地の開拓と警備に必要な技術開発と人材育成を目標に緒方洪庵塾の蘭学者武田斐三郎を教授に、蘭学、測量、航海、造船、砲術、築城、化学などを教え、月に六回の試験を行い、向学心を育みました。

調所の学問が実用学であることを証明しました。この頃「エンサイクロペディアブリタニカ」などの洋書が教科書、研究書として使用され、一八六一年（文久元）開設の英語稽古所、箱館洋学所や開拓使に引き継がれました。現在も諸術調所などの蔵書印が付された学術書は、函館市中央図書館に残されています。

文化の吸収に努めました。例えばロシア領事ゴシケーウイチが写真機を持参して撮影を行い、医師ザレスキーもその術をよくしたことから、当時箱館で洋服の裁縫を業としていた木津孝吉が、彼らに師事してその技術を習っています。またザレスキーの病院で治療を受けて知り合った田本研造は、その手伝いをしながら撮影法を知り、孝吉と研造は、ともにその術を会得、一八六六年（慶応二）頃には、撮影を行うようになりました。これが箱館における写真師の始まりです。

(五)HAKODADI「ハイカラ文化」
明治時代に入ると、日本固有の伝統文化を有する日常生活にも近代的な西歐化が広まり、高い襟(high collar)のついた洋服やシャツが着られるようになり、洋風好みの代名詞として、ハイカラという言葉が流行するようになりました。
注本文は、函館商工会議所から平成十八年十二月に発行された函館歴史文化観光検定「はこだて検定公式テキストブック」の中から、函館商工会議所の承認を得て掲載しました。

はこだて赤い靴の会

函館にははこだて赤い靴の会(宮崎衛会長)があり、来年「赤い靴の少女像」の建立する計画が進められています。

異人さんに連れられて行った女の子と函館に、どういふ関係があるのかと思ったら、次のような物語がありました。

女の子の名前は「きみ」。明治三十五年、静岡県清水市で、岩崎かよの子として出生。一歳の頃、北海道開拓移住団に混じり、母に背負われて函館の東棧橋に辿り着きました。貧母娘二人は棧橋近くで、貧

しいながら幸せな暮らしをしていましたが、病弱だった「きみ」は、開拓地へ向かう母について行くことが出来ず、遺愛女学校教師であった、アメリカ人のW・ヒュット牧師夫妻の里子として、預けられたのです。

明治四十一年、夫妻はアメリカへ帰国することになりましたが、「きみ」を開拓地の親元に帰す術もなく、やむを得ず一緒に連れて函館から上京しました。

しかし、五歳の病弱な女の子に、船の長旅には耐えられないと



判断した夫妻は、「きみ」を麻布十番の教会付属永坂孤女院に託して帰国しました。
一人残された「きみ」は、東洋英和女学校在学中、明治四十四年九歳で、結核性腹膜炎のため、母に会えないまま薄幸の生涯を終えました。函館が母娘の別れの舞台だったのです。
この像は現在、函館出身でローマ在住の彫刻家、小寺真知子さんが製作中で、函館開港百五十周年に合わせ、本年六月旧棧橋付近に設置されることになっています。
道南会新年総会に、宮崎会長が出席、像建設の活動についてお話を予定です。

明けておめでとうございます
道南会名誉会長
田沼 修二

明けておめでとうございます
道南会会長
川守田 孝平

明けておめでとうございます
道南会副会長
沼崎 貞良

明けておめでとうございます
道南会副会長
板垣 寿見子

明けておめでとうございます
道南会副会長
薬袋 泰

武田斐三郎 市立函館図書館蔵



随想・函館弁雑感

函館空襲と軍艦「橘」

田沼 修一

戦後六十年を超え、戦争の記憶は薄れるばかりだが、広島や長崎の原爆は全世界の記憶となつている。また、東京や大阪などの大空襲は、今なおその住民の話題に上つている。しかし、被害の少なかつた函館市民の多くが昭和二十年七月十四日に受けた空襲のことを忘れているのはやむを得ないことであろう。

サイパン・硫黄島を制圧した米軍は、爆撃機による大都市への空襲と、機動部隊による室蘭、釜石、日立などの兵器生産地帯に重点的に艦砲射撃を実施したが、石炭などの重要軍需物資の輸送路にあたる津軽海峡破壊の余力はなかつたようだ。

その頃急造された駆逐艦「橘」と「柳」は大湊に配属され、津軽海峡への米潜水艦侵入阻止に当たつていた。「橘」は函館周辺を、「柳」は青森周辺の警備を担当していた。

七月十四日午前五時、米空母を発進したコルセア戦闘機十一機を先頭に、船舶が停泊していた函館港に向かい、先ず隊長は

四機を率いて第一目標「橘」を襲つた。「橘」は港外に全速回避しつゝ、高角砲三門、機銃十一基で一斉に対空砲火を浴びせ、後続の米軍機にも損害を与えた。しかし、「橘」の勇戦奮闘も、次々に襲う米軍機により午前六時五十三分、函館港外で撃沈された。乗組員は林少佐以下二百八十名。このうち戦死者百四十名、戦傷者三十一名であつた。戦果としては、F6戦闘機二機、爆撃機三機、雷撃機一機を撃墜、搭乗員三名が未帰還と公表している。

この空襲によって、青函連絡船の被害は甚大で、第七、第八、第十青函丸、松前丸が沈没や座礁したほか、港内に避難していた汽船七隻、機帆船五隻にも被害があつた。

この空襲は、港内の船舶を襲撃するものであつたが、余分の爆弾で海岸付近の家屋や倉庫なども襲い、家屋百十六棟、三百八十六戸を全焼。死者十四名を数えた。

一方、青森は船舶が少なかつたことと、平板な都市構造から空襲で市街地の大半が焼失した。

函館市内の戦災



が少なかつた理由は、「橘」が港外で全能力をあげて対空砲火を浴びせ続け、約三時間にわたつて米空軍機を引き寄せ、市街地を襲撃する余裕を与えなかつたことは偉大な戦績であつた。しかし、「橘」は、乗組員の大半を失う結果となつた。昭和三十一年に「橘」の浮揚作業が行われたが、艦内には八十体の遺骨が残されており、「橘」の戦闘の跡を如実に物語つていた。しかし、この「橘」の敢闘ぶりも、一カ月後の終戦の混乱の中で人々の記憶から失われていった。

私の函中同期生の岡本杏一氏（戦後、岡本産婦人科開業）は、たまたま心算準備のために帰郷中で、弥生坂上の自宅での空襲と「橘」の死闘をつぶさに見ることができた。すでに東京で大規模な空襲による被害を体験していた岡本氏は、比較的冷静に「橘」の戦いぶりを見つめ、勇戦奮闘ぶりに感動したという。

戦後の混乱の中で、函館の空襲による被災は、他の大規模な被災地のように語り継がれることもなく、何時しか忘れ去られてしまつた。しかし、函館市の空

襲被害を最小限にとどめた「橘」の偉功を後世に残したいと考えた岡本氏は、市民の有志や「橘」の生き残つた乗組員達や遺族達と謀つて鎮魂の碑を建立し、戦没乗組員の慰霊を行つてきた。

平成三年七月、精霊の相集う十三日、若葉の薫る函館護国神社境内で帝國海軍駆逐艦「橘」の鎮魂の碑の除幕式が執り行われた。前年に亡くなつた林艦長に代つて、前任将校であつた池田彦四郎氏の「祭祀」が捧げられ、参列した有志市民、元乗組員や遺族に深い感銘を与えた。

岡本氏からこの経緯を聞き、私は帰郷の度に護国神社の高い階段を上つた左側に、句碑や歌碑と並んで雑草に埋もれた鎮魂の碑に顔をすいてくる。岡本氏によれば、建碑以来、毎年有志や元乗組員や遺族による慰霊祭が続けられてきたが、関係者の高齢化や亡くなる方も増え、二年前からそれもなくなつたといふ。淋しく悲しいことである。

五稜郭戦争の戦没者を祀る「碧血碑」がきちんと残されていることを思えば、函館を空襲から護つた「橘」の事績と碑は、大切にされてしかるべきであらう。



明けておめでとうございませう
道南会顧問
郷内 繁

あけまして
おめでとうございませう

青木 登喜	田村 治雄
石畑きね子	照井 陽子
小助川昭一	時田 厚子
佐伯 恵子	豊田 利雄
坂本 保子	豊田みさ子
桜井 正光	納代 鉄也
佐々木静子	成田 慶子
佐々木豊子	新山 春一
佐々木理夫	沼崎 茂子
佐藤 洋	根来美和子
佐藤 マサ	福島 紀
神 れい子	宮島 ひろ
杉田 博子	吉田 房子

「サレヨ―モッコクルン」
函館弁私考
塩野崎 宏（横浜在住）

生まれた家は、大三坂のすぐ下にあつた。川上洋品店といひ、正面を赤く塗つてあつた。その坂を登り、天辺にある遺愛幼稚園や青柳小学校に通つたものだ。坂がすっかり根雪を被ると、子供用の橋を持ち出してきて滑りを楽しんだ。やや成長すると、大分上からスタートしたが、今で言へば新幹線ほどの速度を出している気分で、滑っている間中「サレヨ、サラネバ上カラムッコクルン」と大声で叫んでいたはずである。無用な注釈をつければ、「去れ（橋が滑つて行くから、避難せよ）。坂の上から（あの残虐な）蒙古みたいのが来るぞ」と、下にうろつろしている有象無象への警告なのであつた。これが、今でも記憶から消えない函館弁



昭和38年当時の雪道

の世界の入り口である。家のものが意識して標準語で「ミニミニーション」していたとは思われないが、自分の日常のしゃべりが標準語っぽいと感じたのは、旧制中学へ入ってからだつた。後に何故そうなのか、考えてみた。自分のしゃべりは函館弁と縁が薄いなと思うようになった理由である。

断つておくが、函館弁が嫌いだと言っているのではない。懐かしい古里の言葉だ。嫌いであるはずがない。ただ、何とも身についていないのである。

父親は信州出身だが、小学校の高等科を終えると横浜へ出て、商社の見習小僧となり、独立して樺太や北海道の各地を行商して廻つたと言う。やがて世話してくれる人が居て、函館で所帯を持ち、小さな洋品店を始めた。母親は、軍川村の農家の女ばかりの同胞の一人で、函館弁の普通の使い手だつたと思つた。しかしその父親の話すのは、優しい関西弁で、後で知るのだが、出は滋賀県が多賀大社の近くだつたという。だから、母親のしゃべりは、標準語的でなくはなかつたと思つている。

つまり、私の家の言語環境としては、どうやら標準語的なものにある程度近かつたと言えないこともないかなと甘く考えている。

今一つ、ラジオの影響と言つ

ことも考えてよいのかも知れない。実に良く聴いた。特に、大相撲中継や徳川無声の「宮本武蔵」の語りには聞きほれた。後日NHKに就職するきっかけになつたのかも知れない。

来年はヨム開港百五十年目というのだが、開港を取り決めた日米修好通商条約に先立ち、日米和親条約を締結した米船将ペルリが米会議へ提出した浩瀚な報告書を見ていたら、条約調印後、彼は艦隊を箱館へ向寄せた。そして港の海図を作成したり、役人とか民衆とも接触したのだが、この報告書では、何と現地を「ハータテ」と函館弁で記録しているのを見つけた。濁音の付け方が、まさに函館弁である。一人大笑いしてしまつた。

その発見の暫く後に函館を訪れる機会があつたが、その時元町の食事場所でまさにこの「Hagoodade」の名前の雑誌を発見。さすが知っているのだなと納得したのである。

函館弁には、二つの系統があると言つた。一つは南部の言葉、今ひとつは、やはり東北ではあるが、漁師を中心とした浜言葉だと言つた。

それはともかく、生まれが函館である以上、何れも分らない訳がないという自信はあつた。そしてあるとき、そのことを実証してみようという気になつた。

新婚旅行を兼ねて東北地方を

縦断ドライブをしたことがある。その途中、十和田湖の近くの酸ヶ湯温泉に宿つた。著明な混浴場に入り、浴場を埋め尽くしていた皺くちやの老婆達と会話を試みて、東京の下町生れの家内に函館弁の素晴らしさを聞かせてやるうとの下心である。そして、覚えていた限りの函館弁を動員して質問した。老婆達は、しかるべく応答してくれるのだが、少しも意味が分からない。数個の質問のあと、遂に試みを中止した。まるで会話が進まないのがある。残酷ながら、私の函館弁の能力は皆無と判定されたのであつた。

私の小学生時代と函館弁

河口 義男

去年の今頃であつたらうか。近所の八百屋に果物を買に行つた。先客がいて、七十歳を越した位のお婆さんが、大声で奥にいる八百屋の主人を呼んでいる。「カイベツ、一ツ頂戴」と言いながら、馬鈴薯を見て、「この五升薯ダメだ」とつぶやいている。私はそのお婆さんの顔を見た。「カイベツ」「五升薯」。急に函館弁を思い出した。「カイベツ」は「キャベツ」。「五升薯」は「馬鈴薯」または「ジャガイモ」のこと。

このお婆さん、函館の人かと

急に懐かしみを覚えたが、買い物が終わつてすぐに行つてしまつた。あの「カイベツ」と言つた表現でしかない独特の鼻にかかつた濁音は函館弁である。あのお婆さんにもう一度函館弁を聞きたかつた。

私は大正十年十二月、東雲町に生まれた。「昭和四年六月の駒ヶ岳大噴火は、高砂小学校二年生」。昭和九年三月、二万戸以上焼けた函館大火は六年生の卒業式の前日で猛吹雪の中、火に追われて逃げ、家は全焼。この年の四月、函館商業学校入学。昭和十四年に卒業して上京した。

戦後、一時函館にいたが、「函館弁」は小学校までの十年余りであり、今年数え年八十八歳になるが、小学生頃までに覚えた、あの鼻にかかつた濁音混じりのズーズー弁。「い」と「え」、「ち」と「つ」、「し」と「す」などは今でも正確な発音ができず、「函館弁」である。

函館の中心部生まれなので、住吉町、大森町または山背泊町などの漁師の方々の漁師ことばとも違つし、また郊外農村部の方々の言葉とも違つていたようである。独特の言葉・訛りがあつた。

例えば、「馬鈴薯」は「ジャガイモ」。「五升薯」「にど薯（二度薯）」と言つたり、朝、烏賊（イカ）売りのお婆さんは「え



昭和48年当時の大門通り

使った函館弁、今口から出る幾つかの「函館弁」を並べて見るが、もし

が「えが」と売り歩く。たしが毛蟹売りの人は「がにやがに」であった。濁音が鼻にかかったあの声は書き表せない独特なもので、また懐かしい「えがが売り(烏賊売り)」、「がに売り(毛蟹売り)」の声は今も聞けるであろうか。

小学生の頃は、電車通りや大通りから小路に入ると、狭い道で平屋建の長屋が多く、二階建は少なかった。今のグリーンベルトや整備された道路は函館大火後のこと。大火前は大通りから路地に入ると雑然とした街であった。

間違いがあつたら御諒承願いたし。 オパンドス(今晚は)・ガメル(奪う)・キモヤク(腹を立てる)・カラッポヤミ(怠け者)・コワイ(疲れる)・ゴツペガエス(失敗する)・ダハコク(ねだる)・ハンカクサイ(ばからしい)・ユルクナイ(楽でない)・カッチャク(ひつかく)・ミツタクナシ(美しくない)・イイフリコギ(見栄を張りがる者)・いだわしい(勿体ない)・ぬぐい(温かい)・かまどがえし(倒産)・そつたらべっこ(たつたそれだけ)・つらつけない(図々しい)・おっかない(恐ろしい)・えずい(窮屈)・でめんとり(日雇い労働者)・あつべ(反対)。

私も六十一年前に使った函館弁、今口から出る幾つかの「函館弁」を並べて見るが、もし



明治からの「大門」1年刻み わが街の歴史1冊に

命百三十四年 西会創設五十周年記念 松風町史 心に染みる「松風町史」 道南会顧問 能味 寿哉

い写真一杯の記念誌だった。 心臓疾患で入院中の彼が、子息の幹男君に間違いないと送って欲しいと指示されたという。村上君と宝小學校で一緒だった仲間も大方が他界している現在、何とか元気で暮らしている札幌の池田博君、東京の能味、それに地元で永い間、宝小同窓会の幹事長を引き受け、絶対的な信頼を得た伊藤博君の三人に、進呈してくれたものだと分かった。 私は変わらない友情の篤いことに感激してしまつたが、この記念誌の持つアットホームな雰囲気魅せられつつ、編集委員の皆さん、殊に元二セ「写真店主の秋葉元平さんのご尽力など、何か圧倒されるような思いもし、また周辺住民の底力を嬉しく感じ取っている。 同時にここに掲載した北海道新聞、松崎聖子記者の行き届いた記事にも感謝しているが、ともあれ村上兄の一日も早いご回復をお祈りして、一応ペンをおくこととしたい。

ふるさと・同窓会だより

「東京上磯会」
定期総会・懇親会

道南会副会長 葉袋 泰

「第十四回東京上磯会定期総会・懇親会」は、平成二十年十月十八日(土)ホテルパシフィック東京「三十階スカイラウンジ ブルーパシフィック」で、午後一時より会員及び関係者八十二名、来賓九名が出席して盛大に開催された。

総会議事終了後、郷内繁会長の挨拶のあと、ご来賓の北斗市高谷寿峰副市長のご挨拶で、ふるりの現況、今後について紹介され、続いて北海道ふるさと連合会副会長 鈴木武昌様の乾杯



のご発声により祝宴に移った。

懇親会では、北海道東京事務所副所長 三島滋様の来賓ご挨拶が行われた後、新入会員九名が紹介された。舞台ではピアノ演奏、尺八、踊り、漫談、歌、新・上磯音頭等が披露されたが、特に北斗市市民課主事 三上裕司氏によるハーモニカ演奏は素駆使してのハーモニカ演奏は素晴らしく、会場は大いに盛り上がりを見せ楽しいひとときを過ごされた。

東京青柳会

道南会名誉会長 田沼 修二

一昨年十月に二十五回目の東京青柳会を開き、その席で幹事や会員の高齢化が進み、活動が低下していることなどを勸案して、会の解散が提案され、一旦承認された。

しかし、母校が創立百三十年を迎えている折から、会の継続を希望する声も多く、年長者三人が世話人となって、存続可否のアンケートをとったところ、圧倒的多数の意見で会は存続することとなった。そして、アンケートでの回答には都心部で週日の午後開催の希望が多かった

ので、次の通り実施した。

十一月五日(水)午後二時
有楽町・ニュートーキー

参加者 四十四名

都心部の九階の席では、従来と雰囲気も変わり、歓談が続いた。

千代ヶ岱小学校

東京地区同窓会第二回総会

道南会常任幹事 菅原 大作

函館市立千代ヶ岱小学校の東京地区同窓会の第二回総会が、十一月二十九日(土)午後二時三十分より、東京・中央区日本橋兜町の「ラーメン・古寿茂」で、開催された。

この日の会には、昭和七年卒業の河村泰平氏を始め、昭和三十二年卒の吉野正之氏まで、年齢差二十五歳という幅広い年齢層の同窓生二十四人が出席した。出席者の内訳は、昭和十年代が四人、昭和二十年代十四人、昭和三十年代六人。

会では、最初に総会委員代表の神山茂郎氏が、「同窓会の今後の課題として会の名称、役員の選出について検討する必要がある」と挨拶を兼ねて提案した後、懇親会に移った。

懇親会の中で、同窓会の名称については現在の「千代ヶ岱小学校東京地区同窓会」ではあまりにも長すぎることに、「東京」という地区名を残すか等の意見が

出された結果、会の名称を「東京千代ヶ岱」とすること。役員は、会長を富田洋一氏(昭和二十一年卒・二十八期)、幹事長を菅原大作(昭和三十二年卒・三十九期)、会計を川守田礼子さん(昭和二十八年卒・三十五期)とすることが決まった。

この後、自己紹介を兼ねて卒業年次と在校当時の思い出話を披露していただいた。小学校という極めて狭い範囲から全員が通っていたため、話していくうちお互いの自宅が近所同士だったことが分かるなど、非常に和やかな雰囲気の中で会が進められた。

会話はつきなかつたが、午後四時三十分、全員で新旧の校歌



を斉唱した後、記念写真を撮影し、次回の再会を約束して散会した。

なお、千代ヶ岱小東京同窓会は、現在名簿搭載者が二百六十三人おりますが、引き続き同窓生の掘り起こしを進めております。千代ヶ岱小の同窓生をご存知の方は下記事務局までお知らせください。

東京千代ヶ岱事務局
(千代ヶ岱小東京地区同窓会)
〒一八二・〇〇三三

調布市染地二の八の三E一〇一
FAX 〇四(八四八六)三八六七

同窓会の活動状況

◎白楊ヶ丘同窓会東京支部大会
(安田康次支部長)

十月十八日(土)
青山ダイヤモンドホール
二〇六名

◎東京幸会
十月二十五日(土)
竹芝ベルシー又銀座アスタール
三十一名

◎東京弥生会
十一月一日(土)
日本橋三越本店
十四名

◎遺愛女子高校同窓会
東京支部クリスマス会
(島田瑞子支部長)

十一月五日(金)
アイビーホール青学会館
百九十八名

平成二十二年 夏季懇親会

九月十三日(土)、午後一時から、東京・御茶ノ水ホテル「聚楽」で、夏季懇親会が開催された。

島田瑞子さんの開会の言葉と司会で会は始まった。

最初に、川守田会長が「最近、ガソリンの異常な高騰や、残留農薬やカビ毒での事故米が食品に転用されたりするなど、嫌なニュースばかり入ってくるが、今日はそれらを忘れ、ビールをたくさん飲んでゆっくり楽しいおしゃべりをしていただきたい。ところで、新年総会時に、



「函館弁を愛する会」を提唱し、多くの方にご賛同いただいたが、「函館弁を愛する会」といつても、特別な活動をするわけではなく、夏季懇親会や新年総会で大いに函館弁で語り合っていたかと同時に、会報に函館弁についての随想などを発表していただきたいと考えている。田沼前会長は若い新しい会員を増やすことを提唱されていたが、引き続き若い新規会員の勧誘に努力したい」と挨拶した。

次に、函館市観光コンベンション部の池田敏春ブランド推進課長が、函館市の近況について「昨今の原油高の影響で、日本航空の函館・関西空港便と、函館・青森間を二時間で結んでいた高速フェリーが、それぞれ十月末での運休が決まり、観光都市・函館にとってはなほはだ厳しい状況にある。函館市としても、新たな観光開発に力を注いでいるが、函館市と青森市を一つの大きな観光圏と考えて相互協力を行っている。例えば、韓国・ソウルと函館・青森両空港にはそれぞれ定期便が就航しているので、両空港

と主要観光地を結んだ三角観光構想も練っている。また、二年後には、東北新幹線が青森まで延伸し、さらに七年後には北海道新幹線が新函館まで伸びることになっている。それらを活用する観光プランを開発すべく準備を進めている。最後に、今年度より「ふるさと納税制度」がスタートしたが、今のところ納税申し込みは三十四件のみ。金額は百三十七万円。皆さんの一層のご協力をお願いしたい」と述べた。

さらに、木村拓美函館市民会館館長が、来年の益田喜頓生誕百年記念事業として、明年九月に東京・浅草公会堂で行う、函館市民によるミュージカル「案山子物語」の公演について説明し、公演への協力を呼びかけた。

この後、中村隆俊顧問が、北京オリンピックで優勝した女子ソフトボールチームを引き連れて、函館を訪問し、ソフトボール教室を行ったことなどのエピソードを披露した後、道南会の一層の発展を祈念して乾杯し、懇親会に移った。

懇談の中、八人の新入会員を板垣副会長が紹介。新入会員の皆さんにはそれぞれ自己紹介をしていただいた。

平成二十年度 夏季懇親会出席者

と料理を楽しみながら、函館弁の会話が弾み大変賑わっていた。さらに、出身小学校ごとに分かれての記念写真撮影が行われたほか、函館市とサツポロピールから寄贈されたワインの抽選会もあり、ワインが当たると会場内のあちこちで大きな歓声が上がった。

宴たけなわの午後三時過ぎ、沼崎貞良副会長の一本締めで中締めを行い、次回の再会を約束してお開きとなった。

新入会員紹介

- 青木登喜、朝倉敏夫、浅田和幸、石畑きね子、板垣寿見子、鶴島克孝、岡島紀久、荻野幸平、小田島弘、小田島雅子、小山 光、笠川雅彦、加藤信利、川守田孝平、川守田礼子、菊池紀邦、工藤正昭、小坂鉄雄、小崎みつる、小島幸子、小助川昭一、小林寅雄、小林嘉則、小森良彦、小山和彦、小山慶子、櫻井正光、櫻川梅房、佐々木静子、佐々木豊子、佐藤マサ、澤株正始、澤株尚子、澤出重雄、塩野崎 宏、汐谷 進、島田瑞子、新谷義克、菅 愛子、菅原大作、菅原 靖、杉田博子、須藤珠美、瀬田松吉昭、相馬 滋、染木トシ、高木清子、高田和扶、竹澤秀明、竹中裕行、田辺貴子、田村良人、田村房江、丹野康男、鶴本支郎、照井陽子、土井真一、時田厚子、豊田利雄、豊田みさ子、鳥本玲子、中川和彦、中島利夫、長島 康、中根俊郎、中村昭一、中村隆俊、納代鉄也、成田きよえ、成田慶子、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、濱光徳、濱片志津子、原 ヒエ子、比嘉裕子、東川正秀、東川満子、福島 紀、福島妙子、福津達男、藤山秀樹、本間和吉、松浦和彌、松田洲平、松永幹男、三國比左男、三垣正憲、薬袋 泰、三橋淑子、三村寿雄、宮島ひろ、森岡偉行、山本和子、山下弘治、山田克明、山本久子、若林岑夫、渡邊一郎、渡辺宏司、渡部良孝、池田敏春(函館市観光コンベンション部ブランド推進課課長)、木村拓美(函館市民会館館長)、伊藤嘉大(函館市民会館)
- 岡島 紀久 (弥生小卒)
- 小田島雅子
- 小田島 弘(弘さんの奥様)
- 澤出 重雄 (大沼中卒)
- 塩野崎 宏 (青柳小卒)
- 竹澤 秀明 (谷地頭小卒)
- 中根 俊郎 (函館出身)
- 福島 妙子 (万年橋小卒)
- 三垣 正憲 (旭川出身)

()内は出身小学校または出身地

道南会行事報告

サッポロビール千葉工場見学
八月一日(金)午前十一時
JR総武線の津田沼駅に集合、
工場の送迎バスで工場に向かっ
た。

これまでの見学会は、土曜日
に行っていたため、生産ライン
が止まっていたが、今回は平日
だったのでフル操業中のビール
生産工程をガイドさんの説明を
聞きながら見学することができ



た。

見学の後、ビール
が待つ会場へ。サッ
ポロビール今井部長
の挨拶のあと早速乾
杯し、美味しいビー
ルで乾いた喉を潤し
た。名物ガイド嬢に
ビールの正しい飲み
方、背筋を伸ばして、
胸を張る”を聞きな
がら次々とグラスを
干した。ビールと発
泡酒”麦とホップ”
の飲み比べなどをし
ているうちに時間と
なり、お土産のビー
ルグラスをいただき
て、津田沼駅で散会
した。

参加者三十三名

横須賀くりはま・
コスモス花めぐり

十月十四日(火)
午前十一時

京浜急行・京急久
里浜駅に集合。曇り

空の中、徒歩で十分程の久里浜
「花の国」へ。園内は左右の幅
およそ三百mの谷合の緩やかな
登り坂になっている傾斜地に一
面に咲いたコスモスを眺めなが
ら、食事ができる場所を探して
しばらく散策した。

この日は、コスモスマツリが
行われており、平日にも関わり



ず、大勢の人が訪れていた。

広場を見つけて、昼食になり
函館弁での会話を楽しみながら
しばし歓談したが、午後一時三
十分過ぎに小雨が降り出して来
たところで、昼食を終えて解散。
それぞれのペースで久里浜駅を
目指した。

参加者二十一人。

代々木公園紅葉狩り
十一月二十六日(水)午前十
一時

JR山の手線・原宿駅表参道
口に集合。快晴微風の絶好の小
春日和の天候に恵まれた中、紅
葉真っ盛りの代々木公園内を散
策しながら、中央広場へ行き、
芝生にレジャーシートを広げ
て、車座になって、見頃の紅葉
を愛でながら昼食に。ビールや
お酒、お茶を飲みながら歓談を
した。話題はやはり函館時代の
思い出話、各所で函館弁の会話
が飛び交っていた。

参加者三十八人。

訃報

- 室谷 国男氏
平成20年1月9日逝去
- 阿部 正身氏
平成20年1月21日逝去
- 山名 昭二氏
平成20年6月2日逝去
- 村山 正郎氏
平成20年6月4日逝去
- 大澤 素夫氏
平成20年8月2日逝去
- 中野孝太郎氏
平成20年10月6日逝去
- 篠崎 哲子さん
平成20年10月21日逝去

謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

今号にも名刺広告を掲載いたしま
した。この名刺広告は、印刷費用の
経費軽減を図るために皆様にご協力
をお願いしております。今後とも、
個人の方はもちろん企業広告などを
掲載していただくようお願いいた
します。

道南会では、二十年の行事として、
一月の新年総会、九月の夏季懇親会
のほかに、三月・新宿御苑の梅見の
会、四月・光が丘公園のお花見の会、
五月・皇居東御苑の散策(雨天のた
め中止)、七月・再度・皇居東御苑
の散策、七月・ゴルフコンペ、八
月・サッポロビール工場見学、十
月・横須賀・くりはま・花の国・コ
スモス花めぐり、十一月・代々木公
園・紅葉狩りを、それぞれ行いまし
た。本年も皆様との交流行事を企画
したいと考えておりますので、ご意
見などをお寄せいただければ幸いで
す。

函館弁を愛する会では、入会の募
集と同時に、函館弁(ふるさと言葉
など)でのエピソードがございましたら、
原稿をお寄せいただきたくお
願いたします。

会報「道南」
二十一年・新年号・通巻49号
発行 平成二十一年一月一日
発行所 北海道道南会事務局
横浜市鶴見区生麦
四九 十三 八〇三
川守田 気付
印刷所 富士製版印刷(株)
世田谷区下馬四十七 十七